

氏 名	駒井 幸子
学位の種類	修士 (看護学)
学位記番号	修士 第 153 号
学位授与年月日	平成25年3月7日
学位論文題目	HPN (在宅静脈栄養) を必要とする子どもの母親 の育児の実際

論文内容要旨

※整理番号	158	(ふりがな) 氏名	こまい ゆきこ 駒井 幸子
修士論文題目	HPN (在宅静脈栄養) を必要とする子どもの母親の育児の実際		
<p>目的 本研究の目的は、HPN を必要とする子どもの母親が行う育児の実際を明らかにすることである。</p> <p>方法</p> <p>面接は滋賀医科大学倫理委員会承認後の 2012 年 7 月～8 月にかけて行った。半構成的面接法を用い、インタビューガイドに沿って、90 分程度の時間で行った。インタビューガイドを資料 1、2 に示す。</p> <p>面接日時は、事前に研究協力者と打ち合わせを行った。</p> <p>面接場所は研究協力者の自宅、外来や病棟内の一室を借用し、プライバシーの保護と静穏な環境の提供に努めた。</p> <p>研究協力者 10 名の全員より IC レコーダーへの面接内容録音の許可が得られ、録音を行った。</p> <p>結果・考察</p> <p>1. HPN を必要とする子どもの母親が行う育児の実際として、【病気の予後に関連した不適切なケア】【子どもを健康に養育しやすい環境を工夫】【HPN のある子どもの自己管理を教育】【HPN のある子どものセルフケアに折り合い】【社会性を尊重した自立を支援】の 5 つの大カテゴリーが抽出された。</p> <p>2. HPN のある子どもをもつ母親の育児の実際は【病気の予後に関連した不適切なケア】がみられたが、【子どもを健康に養育しやすい環境を工夫】していた。子どもの育つ環境を調整しながら【HPN のある子どもの自己管理を教育】している。【HPN のある子どものセルフケアに折り合い】をつけながら支援を行う事で【社会性を尊重した自立を支援】していたと言う事がわかった。</p> <p>3. HPN を必要とする成人した子どもが行っている自己管理の実際として、【消化器症状より体調を判断】【体調を評価して HPN を自己管理】【社会で自立した将来を希望】【消化機能障害による生活の不都合さを実感】の 4 つの大カテゴリーが抽出された。</p> <p>4. HPN のある子どもは、【消化器症状より体調を判断】し【体調を評価して HPN を自己管理】していた。また、病気であっても【社会で自立した将来を希望】して自己管理と社会生活の折り合いをつけているが、成長とともに症状が悪化していることに気付いており、【消化機能障害による生活の不都合さを実感】している現状である事がわかった。</p> <p>総括</p> <p>本研究において、HPN を必要とする子どもの母親の育児の実際を明らかにし、子どもにとって有用な自己管理方法を示唆したが、本研究の協力者は、HPN を必要とする子どもと家族の会を通じて協力依頼した会員の中の、関西地区在住と偏りがあつた、また、社会参加に積極的で、生活の実態や考え方についても一定の傾向があつたとも考えられるため、今後は別の HPN の会の患児とその家族からより多様な母親の育児の実際を知ること、その傾向を知り看護援助に活かせると考える。</p>			